繊維ニュース
中国繊維情報10月21日(水)

アジア最大級で開幕

日本素材を広くアピール

上海 インターテキスタイル 2009

「インターテキスタイル上海アパレルファブリックス2009」が20日、中国・上海の上海新国際博覧センターで開幕した。メッセ・フランクフルトなどが主催、11万5000平方㍍の展示面積はアジア最大級。21カ国から2400社以上が参加した。〔上海支局〕

昨年に続き、メサゴ・メッセフランクフルトが組織した日本館「クリエーティブ・ジャパン」はW2号館にあり、50社・団体が参加。また、同パビリオンには今回、「JFW—JCイン上海」の区画が設けられ、9社が出展している。さらに、日本館以外でも単独出展する日系企業があり、世界不況の中でも、回復の兆しが著しい中国市場に期待する。

W2号館の「クリエーティブ・ジャパン」

JFW—JCの川島朗事務局長は「JCがJFWの傘下に入って初の上海展。23日の閉幕まで広く日本の素材をアピールしたい」と語った。21日には井上佐知子氏の2010秋冬のトレンドセミナーが会場内で予定されており、日本のテキスタイルの優位性を広く訴求していく。

「小紋工房」を提案 宇仁繊維

宇仁繊維は、日本に備蓄して販売している婦人服地群「小紋工房」を提案した。小紋工房は、900品番（2500柄、1万色）で、いずれも同社が企画。全てを日本で備蓄するが、一部の生地は上海にも備蓄する。これらを現法の小紋貿易会社を通じて販売している。宇仁龍一社長は「香港、深圳、北京、上海の展示会に出展し、中国での認識も高まった。今回はアニマル柄が好評」という。

人気のポリエステル100%アニマル柄

プレミアム用生地提案 カイハラ

カイハラは、プレミアムジーンズのためのあらゆる種類のデニム生地をそろえる。今回は中国のプレミアムジーンズブランドのバイヤーを探すのが目的。ライト&ソフトの流れから、デニムの重さも10㌔を割るくらいになってきた。今回はスーピマやギザ綿を使って、軽量でソフトなデニムを打ち出す。また、「米国ではブラック、グレー系が注目されており、そうしたデニムも出品」した。日本館とは別に、香港の代理店・テキスタイル・リソーズがW1号館で同社のデニムを提案している。

特殊デニム出品 須磨商事

須磨商事は、綿製の薄手から中肉、厚手の生地を扱う。ほとんどの商品を日本国内に備蓄しているため、小ロット、短納期オーダーにも対応可能だ。今回は、経糸を日本古来の色に染め、シャトル織機で織ったセルビッチデニムなどを出品した。また、ライトオンスデニムが好評なため、5㌔のデニムも提案。ブラックやグレー系のデニム、米国で人気のハイパワーストレッチデニムも出品している。「夏に欧米でワークして人気だったデニム」の紹介だ。

11月に中国法人設立 瀧定大阪

瀧定大阪は、中国に瀧定大阪商貿（上海）を11月に設立する。ここを拠点として、中国アパレル企業への販売を本格化する。インテキ上海に出展するとともに、同展と同時期（21～23日）に、会場近くのホテル・クラウンプラザセンチュリーパークで単独展も開催。JCでは欧米向けの価格対応素材、単独展では内販向けの日本素材を打ち出す。瀧定大阪商貿（上海）公司の元決済機能と備蓄機能を生かして、中国国内向けアパレルへの生地供給を拡大する方針だ。

地方の顧客獲得狙う サンウェル

サンウェルは、日本と現地法人の燦日泉（上海）貿易が備蓄販売する10秋冬生地の新作を出品する。日本と中国に備蓄する1500品番の生地を展示し、華東地区の既存客とのミーティングのほか、地方から来場する新規クライアントの獲得を狙う。「展示会終了後にピックアップした商品を持参し、出張ベースで足を運ぶ」と平岡克之取締役執行役員。積極的なアフターケアで、華北・華南市場の新規開拓に尽力する。

「ふじやま織」を紹介 富士吉田織物協同組合

富士吉田織物協同組合は、昨年に続いて2回目の出展になる。参加企業は7社から8社に増えた。8社それぞれの得意分野と個性を生かしながら、先染め、高密度、ジャカード、小ロット生産という特性を持つ「ふじやま織」を来場者に訴える。

主な狙いは、需要が強く期待できる中国国内市場であり、さらに中国を通じた欧州市場も視野に入れる。

旭化成グループの旭化成紡織品貿易〈上海〉が、その貿易を担う。

商談の場、前面に 旭化成せんい

旭化成せんいは、スパンデックス「ロイカ」とキュプラ「ベンベルグ」裏地を主体に出展している。このうち、ベンベルグ裏地はグループ企業である寧波宜陽賓覇紡織品が中国企業の副資材を対象とする西5号館に出展。西2号館の日本パビリオンの旭化成せんいブースでは、高機能ロイカ主体に、高級人エスエード「ラムース」を加え、さらに旭化成グループ全体の紹介にも力を注いでいる。

6回目となる今回の出展では、商談の場としての性格をより強く打ち出し、ロイカの貿易部門だけでなく、インナー、レッグ、アウターの国内部門も参加して、中国内販への対応体制を採っている。

差別化素材をアピールした

イメージは「天女」 東洋紡

東洋紡（日本エクスラン工業）は、「天女」のイメージを前面に出して、優しさ、美しさの中にも強さを秘めたアクリル繊維「エクスラン」などを主張している。

保温吸湿の機能性を持つ「エクス」「セラボ」、柔らかい感性を訴求する「極衣」「エレナ」に、帯電圧2kV未満の制電素材「エレス」、アミノ酸入りの「アクアミノ」を中国で初めて紹介する。

製品レベルでは、薄くても保温性のある衣料、レギンス、リラックスできておしゃれなホームウエア、カジュアルTシャツを提案している。

毎年目を引く東洋紡ブース

中国青年代表団と交流

大阪府友好協会とFUDAIが

17日、大阪府日中友好協会とFUDAI（大阪府立大学が出資する産学共同会社）が主催する「中国青年代表団 経済界分団の座談会・合同合宿」が、ホテル若水（兵庫県・宝塚市）で行われた。

今回の催しに協力している日中経済貿易センターの青木俊一郎理事長が日本側を代表し「今年は中国建国60周年という記念すべき節目に当たり、中国経済の未来を担う青年団との交流は両国の発展にとって意義深いものになる」と歓迎の意を述べた。

これに応えて、中国青年団から秦文貴総団長が「団員は35歳までの有望な男女約50人を選抜した。座談会では、若者らしく率直に意見を交換し合い、より親睦を深めたい」とあいさつした。

座談会は小グループ制形式で「経済予測、企業の社会的責任、企業の社員教育」をテーマに、日本と中国の経済環境、商慣習の違いや、人材管理の対処法など多岐に渡って議論された。

香港から上海へ転換 ジョイント尾州

ジョイント尾州は、尾張産地のウール生地を中心に展開した。香港開催の「インターストップ・アジア・エッセンシャル」に過去2回出展したが、上海の展示会は初となる。「欧米系バイイングオフィスが香港から上海に移転しつつある」流れを受け、上海出展に切り替えた。尾州産地のウール製品を地元企業にアピールし、中国市場参入を図る。また、欧米系デザイナーブランドへの売り込みにも力を入れる。

グローバル戦略に クラボウ

クラボウは、インターテキスタイル上海への出展を同社のグローバル戦略と捉える。「当社の繊維ビジネス全体を考えると、中国市場は絶対外せない」（吉田純一取締役・東京支社支社長）と捉える。近日中に現地法人設立を予定し、中国市場での販売本格化へのステップとする。最終的には世界市場での知名度の向上を目指す。今回は、クラボウデニムのほか、ウール本来の性質にウォッシャブル性をプラスした素材「エコ・ウォッシュ」、旭化成せんいと共同開発した複合素材の「J—ファイバー」といった差別化素材をアピールする。

新中国 成立60周年

経済社会発展の成果をみる 12

統計局資料より

1978年以降の改革開放の深まりに従って、中国の総合力は著しく強まり、国際社会への貢献と影響が次第に大きくなり、世界の経済成長へ極めて大きな影響を与えている。

改革開放後の30年、中国の国民経済は長期にわたり安定した高成長を維持してきた（表）。30年間に国内総生産（GDP）は急増し、世界経済への貢献率も大きく上昇した。

中国経済の世界経済に対する貢献率は、1978年の2・3%から2007年には19・2%に達し、世界最高となった。米国より3・5㌽、ユーロ圏より6・3㌽、日本より11・7㌽、それぞれ高い。

世界の経済成長率に対する中国のけん引度は、1978年には0・1㌽しかなく、米国は当時1・7㌽に達していた。2007年には、中国のけん引度は0・7㌽になり、世界最高位を占めた。

◇

中国国家統計局による「新中国成立60周年経済社会発展の成果を振り返る」との報告を、テーマに応じて摘要・アレンジして部分的にまとめてきた。18回シリーズ各回の報告題名は次の通りであり、本連載で採り上げられなかったテーマも多い。報告の性格上、60年間の成果を誇ることが狙いであり、問題点の指摘は改革開放前の一部だけに限られ、改革開放や現在の中国が抱える問題には触れていない。

①輝かしい発展の軌跡②閉鎖・半閉鎖から全方位開放へ偉大な歴史の転換③進む経済構造調整と水準向上—重大バランスが日ごとに調和④国民生活—貧困から全面小康へ⑤適度な人口増加構造へ改善進む⑥多様な就業構造の初歩形成と顕著な拡大続く就業規模⑦基盤産業とインフラ建設の輝かしい成果⑧不足から繁栄へ—変わる都市と農村の消費市場⑨急伸する対外貿易⑩日進月歩で成長する都市経済⑪農業基礎の安定的発展と林業・牧畜・漁業の繁栄⑫貧困・空白から現代化産業システムへの歴史的転換⑬エネルギー生産力の拡大と進展する構造改革⑭多様な運輸ネットワーク⑮急成長遂げる郵便通信産業⑯技術力向上でイノベーション成果続出⑰環境保全で成果⑱国際的地位向上と国際的影響力拡大。（おわり）

国際影響力

世界経済成長へ最大貢献

表 世界主要国・地域の経済成長率比較

（単位：%）

	1961年	1979年	1990年	2000年	2006年	2008年	1961～2008年平均成長率
世界総計	4.6	4.2	2.9	4.1	3.9	2.1	3.6
米国	2.7	3.2	1.9	3.7	2.9	1.1	3.2
ユーロ圏	6.6	3.9	3.5	3.9	2.7	0.9	3.2
日本	12.0	5.5	5.2	2.9	2.2	−0.6	4.4
中国	**-27.1**	**7.6**	**3.8**	**8.4**	**11.6**	**9.0**	**7.8**
香港	14.9	11.6	3.9	8.0	7.0	2.5	7.0
韓国	4.9	6.8	9.2	8.5	5.1	2.2	7.0
シンガポール	13.8	9.4	9.2	10.1	9.4	1.1	7.8
マレーシア	7.6	9.3	9.0	8.9	5.9	4.6	6.5
インド	3.9	−5.2	5.5	4.0	9.7	7.3	5.0
ロシア			−3.0	10.0	7.4	5.6	0.4
ブラジル	10.3	6.8	−4.3	4.3	3.7	5.1	4.4

原出所：世界銀行、2008年は国際通貨基金